

# 5 令和5年度 東京都立大森高等学校 学校経営報告 (定時制課程)

校長 池田 美穂

## I 目指す学校

### スクール・ミッション

「敬愛・誠実・努力」の校訓のもとに、心身の健全な発達を図り、良識ある有益な人物を育成します。生活規律・授業規律を重視し、誰もが安心して学べる環境を確保するとともに、地域に根差し、信頼される学校を目指して、生徒一人一人のニーズを的確に把握し、適切な支援を行うことで、自立や社会参加に必要な資質と能力を育成します。

### 教育目標

- (1) 豊かな個性と自主・自立の精神をそなえた生徒を育成する。
- (2) 正義と自由を尊び、規律を守る生徒を育成する。
- (3) 社会へ奉仕する心や他者に対する思いやりの心を持ち、人権感覚を備えた生徒を育成する。

## II 今年度の取組と自己評価 (A:高度に達成, B:おおむね達成, C:もう一步, D:抜本的改善が必要)

### 1 教育活動への取組と自己評価

#### (1) 教育活動全般

目標と方策	取組と学校評価	自己評価
<p>ア 生徒の活動の幅と質の向上をはかり、生徒が様々なことに自らチャレンジし、仲間と協力し合う資質・能力を一層育み、生徒・教員が健康で安全に生活できるための知識をもち、適切な行動をとれるようにする。</p> <p>イ デジタル技術を活用し、学び方・教え方・働き方の転換を図り、教育内容・方法の改善や充実、働き方改革を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 様々な学校行事を通して生徒が幅広い体験的、協調的な体験を行うことができた。</li> <li>・ 毎日の登校時の検温及び健康観察を通して、家庭との連絡を密にするなど対策を行った。</li> <li>・ 一人一台端末等を用いた学習活動により、教育内容・方法の改善を図った。</li> </ul> <p>【学校評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本校に入学して良かったと思う生徒：100% (21ポイント上昇)</li> </ul>	A

#### (2) 生活指導

目標と方策	取組と学校評価	自己評価
<p>ア 挨拶の励行、言葉遣いや遅刻防止指導、授業規律の確保、いじめ・喫煙防止、体育館履き指導等により、学ぶ者としての基本的な態度を育てる。</p> <p>イ ホームルームや部活動を通して、学校や社会のルールを遵守する態度及び世界に通用するマナーを身に付けさせる。</p> <p>ウ 全教員による校内巡回体制を充実させ、生徒が安心して学べ、安全で落ち着いた学習環境を確保する。</p> <p>エ 自立支援担当を中心に、分掌・学年と「自立支援チーム」や外部諸機関との連携をとり、不登校及び中途退学未然防止や福祉的支援及び就労支援体制を充実させる。</p> <p>オ 生徒の問題行動等への対応において、毅然とした指導を行いながら、生徒のサポート体制を構築し、健全育成を図る。</p> <p>カ 体罰の根絶やいじめの未然防止、早期発見・早期対応に向け、教員間の連携を密にするるとともに スクールカウンセラーを活用し、生徒一人一人の心の健康に対応できる教育相談体制を確立する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 始業前の挨拶を励行し、生徒の状況を把握し、学校生活や学習に向かう意欲の向上に取り組んだ。各行事や集会指導において、授業時のマナーや聞く姿勢等について繰り返し指導を行った。部活動を通して、社会に通じる態度やマナーを身につけさせた。</li> <li>・ 自立支援担当を中心に、生徒の情報共有を深め、保護者と連携した指導により中途退学者数1名(前年度と同じ)とした。</li> <li>・ スクールカウンセラーを活用し、教員との連携を深め、安心・安全な学習環境の確保に努めた結果、いじめ件数は0件、問題行動発生件数は0件だった。</li> </ul> <p>【学校評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生活指導が適切に行われていると回答した生徒：81% (15ポイント上昇)</li> </ul>	A

(3) 学習指導

目標と方策	取組と学校評価	自己評価
<p>ア 学習習慣の定着及び授業規律の確保を図り、基礎学力を身に付けさせる。</p> <p>イ 年間指導計画、週ごとの指導計画に基づき、教材を工夫し、計画的に授業を実践する。</p> <p>ウ 校内における授業研修を充実させ、教員のICT活用能力向上を図り、生徒の興味関心及び学習意欲を喚起する授業改善を行い、生徒の学力の定着を図る。</p> <p>エ 学びのユニバーサルデザインを意識した学習環境の整備に努め、家庭、出身中学校、関係諸機関等と連携し、適切な指導及び支援を行う。</p> <p>オ 新学習指導要領の確実な実施に向け、指導計画や観点別評価の方法について研究・改善する。</p> <p>カ タブレット端末やスマートフォンなどの情報端末を活用し、情報を正しく取捨選択し、自分の学力や興味関心に応じて学びを深める力を育成する。</p> <p>キ 図書館の利用について計画的に指導し、組織的に読書活動を推進する。</p>	<p>・入学者選抜の学力分析や定期考査結果等を踏まえて、担当教員による学力分析、教務部を中心とした全教員による意見交換等を行い、生徒の基礎学力を充実させる指導を行った。</p> <p>・生徒の学習到達度に応じた課題を提示し、個別指導の充実を図った。</p> <p>・全日制と連携して漢字検定試験を実施した。</p> <p>・外国籍の生徒に対し、日本語指導を行い、日本語検定試験の合格につなげた。</p> <p>【学校評価】</p> <p>・授業が分かりやすいと思う生徒：95.2% (9ポイント上昇)</p> <p>・本校で学力がついたと思う生徒：76.2% (7ポイント上昇)</p> <p>・図書館の利用や読書について適切に指導が行われていると回答した生徒：89.3% (15ポイント上昇)</p>	<p>B</p>

(4) 進路指導

目標と方策	取組と学校評価	自己評価
<p>ア 系統的、計画的なキャリアガイダンスを充実させ、1年生時から進路を考えさせる。</p> <p>イ 個別指導などを通して、生徒一人一人に「将来自分は何をしたいか」を考えさせ、自己の適性を生かす就労指導にあたる。</p> <p>ウ 関係機関と連携して進路説明会を計画的に実施し、進路に関する情報を積極的に提供することで生徒の進路意識を高める。</p>	<p>・ユースソーシャルワーカーと連携し生徒自身の進路について多角的に考えさせる機会を増やした。</p> <p>・公的機関等と連携した社会的・職業的自立教育プログラムを実施するなどして、生徒の進路意識を高めた。</p> <p>・個々の特性や家庭事情により正規就職者数は目標の半分程度にとどまった。</p> <p>【学校評価】</p> <p>・進路指導に満足と回答した生徒：71.4% (4ポイント上昇)</p>	<p>B</p>

(5) 特別活動

目標と方策	取組と学校評価	自己評価
<p>ア 部活動や学校行事を活性化し、生徒の学校への帰属意識を醸成し、望ましい人間関係を構築する資質・能力を育てる。</p> <p>イ 学校生活への不安を取り除き、中途退学を防止するため、グループエンカウンターやスクールカウンセラー・ユースソーシャルワーカーとの全員面接を実施する。</p> <p>ウ 学校2020レガシーを踏まえ、地域の美化活動を行うなど、地域貢献活動を行う。</p>	<p>・新たな企画による文化祭を実施した。また、生徒による部活動紹介や部活動推進週間により、部活動の活性化を実現できた。</p> <p>・バレーボール部が公式戦において準々優勝という結果を残した。</p> <p>・ダンス部が全日制ダンス部と共に周年行事において発表した。</p> <p>・グループエンカウンターを複数年次で行い、スクールカウンセラー・ユースソーシャルワーカーを活用し、不登校・中途退学の防止ができた。</p> <p>【学校評価】</p> <p>・学校行事が充実していると思う生徒：95.2% (30ポイント上昇)</p> <p>・部活動が充実していると思う生徒：80.9% (18ポイント上昇)</p>	<p>A</p>

(6) 心と体の健康づくり

目標と方策	取組と学校評価	自己評価
<p>ア 生徒の生活習慣や心の健康問題等について、校医・関係機関と保健室や学年等の連携を図るとともに スクールカウンセラーを有効活用し、自己の心身の状態に気付かせるとともに健康についての知識を身に付けさせる。</p> <p>イ 教科等との関連を図りながら、生活する上で必要な知識を自ら学ばせるとともに、自己の体力に応じて日常的に運動をするなど適切な行動がとれるようにする。</p>	<p>・家庭・中学校からの情報収集、スクールカウンセラーによる一年生・二年生との面談やユースソーシャルワーカーによる全員個別面談を実施し、生徒の状況に応じた指導・支援を行った。</p> <p>・登校時の検温及び健康観察を徹底した。定期健康診断受診率100.0%。</p> <p>【学校評価】</p> <p>・悩みや相談したいことについて、先生に気軽に相談できると思う生徒：80.9% (8ポイント上昇)</p>	B

(7) 人権教育の推進

目標と方策	取組と学校評価	自己評価
<p>ア 保護者、関係機関等と連携し、生徒の人権意識を高める講演会を実施するなど、地域や外部人材を活用した特色ある教育活動を展開する。</p> <p>イ 外国籍等の生徒への日本語指導支援や進路保障等の取組を充実させる。</p>	<p>・年齢、国籍等多様な生徒が在籍しており、互いを尊重する態度をあらゆる教育活動において育成している。</p> <p>・3月に、本校教員を講師とした人権教育講演会を行った。</p> <p>【学校評価】</p> <p>・教職員がいろいろな問題を見逃さずに、対応してくれると思う生徒：71.4% (6ポイント上昇)</p>	B

(8) 学校経営・組織体制

目標と方策	取組と学校評価	自己評価
<p>ア 企画調整会議を中心とした、組織的機能的な学校運営を図る。</p> <p>イ ホームページを適宜更新し、本校の取組や生徒の活動が保護者、地域、中学生等に的確に伝わるように広報活動を展開する。</p> <p>ウ 学校運営連絡協議会での外部意見や学校評価等を分析及び検討を行い、学校経営に活かす。</p> <p>エ 学校における働き方改革推進プランに基づき、年間15日の年休取得を目標とし、教職員の心身の健康の維持向上及びライフ・ワーク・バランスの実現を図る。</p> <p>オ 経営企画室の経営参画と事務処理の円滑化を図り、教職員の連携・協力体制を構築し、予算の執行、学校徴収金の管理や個人情報取り扱いを適切に行う。</p> <p>カ 教育公務員としての使命と職責の重さを自覚し、研修等により服務規律の理解を深め、自己点検・相互点検を実施する。特に個人情報事故防止のため、チェック体制や取り扱い方法を徹底する。</p> <p>キ 創立75周年にあたり、これまでの取組を検証するとともに、全日制課程と連携して式典や記念誌作成を行う。</p>	<p>・ホームページ、ツイッターで、生徒の活躍や教育活動について広報した。ホームページ更新回数：127回</p> <p>・学校運営連絡協議会を年3回実施し、地域の健全育成、就学年齢者状況、夜間定時制高校のニーズ等、様々な意見・評価を頂き、学校経営に活かした。</p> <p>・考査期間シュレッダー使用禁止等、個人情報紛失防止に引き続き努めた。</p> <p>・働き方改革を推進し、年次休暇取得15日以上100%を達成した。</p> <p>【学校評価】</p> <p>・「近隣に学校の様子を公開している」肯定的回答 地域：42.1% (6ポイント上昇)</p> <p>・学校評価アンケートの保護者回答率：14.3% (7ポイント下方)</p> <p>・「教職員が体罰や暴言を行わないように取り組んでいる」肯定的回答 生徒：90.5% (18ポイント上昇)、教職員：100%</p> <p>・教職員の在校時間の縮減を図っていると回答した教職員：100% (昨年度と同じ)</p>	B

## 2 重点目標への取組と自己評価

### (1) 中途退学防止【中途退学率の減少】

中途退学率	数値目標	実績	取組と自己評価										
<table border="1"> <caption>中途退学率</caption> <tr><th>年度</th><th>率 (%)</th></tr> <tr><td>2年度</td><td>9.3</td></tr> <tr><td>3年度</td><td>13.2</td></tr> <tr><td>4年度</td><td>3.0</td></tr> <tr><td>5年度</td><td>3.0</td></tr> </table>	年度	率 (%)	2年度	9.3	3年度	13.2	4年度	3.0	5年度	3.0	0%	3.0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ S C、Y S Wと連携した教育相談体制の強化により、個別の指導を充実させた。</li> <li>・ S Cの生徒相談延べ268人、教員との情報交換44回。</li> <li>・ Y S W来校数60回、生徒相談延べ80人、教員との情報交換60回。</li> </ul> <b>【自己評価】 A</b>
年度	率 (%)												
2年度	9.3												
3年度	13.2												
4年度	3.0												
5年度	3.0												

### (2) 学習指導【基礎基本の定着、学力向上、出席率の向上】

学力がついたと感じる生徒の割合	数値目標	実績	取組と自己評価										
<table border="1"> <caption>学力がついたと感じる生徒の割合</caption> <tr><th>年度</th><th>割合 (%)</th></tr> <tr><td>2年度</td><td>56.3</td></tr> <tr><td>3年度</td><td>71.9</td></tr> <tr><td>4年度</td><td>69.0</td></tr> <tr><td>5年度</td><td>71.4</td></tr> </table>	年度	割合 (%)	2年度	56.3	3年度	71.9	4年度	69.0	5年度	71.4	75%以上	76.2%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒の学習到達度に応じた課題を提示し、個別指導の充実を図った。</li> <li>・ 外国籍の生徒に対する日本語指導を、より充実させた。</li> <li>・ I C T機器を活用し、生徒の興味・関心を引き出す工夫をした。</li> </ul> <b>【自己評価】 B</b>
年度	割合 (%)												
2年度	56.3												
3年度	71.9												
4年度	69.0												
5年度	71.4												
出席率の向上	数値目標	実績	取組と自己評価										
<table border="1"> <caption>出席率の向上</caption> <tr><th>年度</th><th>率 (%)</th></tr> <tr><td>2年度</td><td>90.5</td></tr> <tr><td>3年度</td><td>85.7</td></tr> <tr><td>4年度</td><td>84.5</td></tr> <tr><td>5年度</td><td>90.7</td></tr> </table>	年度	率 (%)	2年度	90.5	3年度	85.7	4年度	84.5	5年度	90.7	90%以上	90.7%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎日の声掛けやコミュニケーションをとることで、生徒の居場所づくりに努めた。</li> <li>・ 家庭や S C、Y S Wと連携し、生徒の頑張りを支援した。</li> </ul> <b>【自己評価】 A</b>
年度	率 (%)												
2年度	90.5												
3年度	85.7												
4年度	84.5												
5年度	90.7												

### (3) 生活指導・特別活動【部活動加入率の増加】

部活動加入率	数値目標	実績	取組と自己評価										
<table border="1"> <caption>部活動加入率</caption> <tr><th>年度</th><th>率 (%)</th></tr> <tr><td>2年度</td><td>35.0</td></tr> <tr><td>3年度</td><td>36.8</td></tr> <tr><td>4年度</td><td>69.0</td></tr> <tr><td>5年度</td><td>90.5</td></tr> </table>	年度	率 (%)	2年度	35.0	3年度	36.8	4年度	69.0	5年度	90.5	70%以上	90.5%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6月と10月に部活動推進週間を設定し、加入促進を図った。ダンス部が多く数の発表を行い、バレーボール部は公式戦に出場し、準々優勝を果たした。</li> <li>・ 学校行事への参加を全教員で呼びかけ、1～3学年の参加率は、ほぼ100%であった。</li> </ul> <b>【自己評価】 A</b>
年度	率 (%)												
2年度	35.0												
3年度	36.8												
4年度	69.0												
5年度	90.5												

(4) 進路指導【進路決定率の向上】

進路決定率	数値目標	実績	取組と自己評価
<p>2年度 89.0 3年度 100.0 4年度 62.5 5年度 63.6</p>	90%以上	62.5%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路情報提供、ガイダンス体制を強化し、個別の指導の充実を強化した。</li> <li>・全教職員が関わり、生徒の適性に合った進路選択や面接等試験対策を繰り返し行った。</li> </ul> <p>【自己評価】C</p>

(5) 学校経営・組織体制

服務事故防止研修を年3回実施し、事例検討により理解を深めた。定期考査中のシュレツダ一禁止等、個人情報事故防止に組織的に取り組んだ。

Ⅲ 次年度の主な課題と改善策

(1) 中途退学防止

在校する生徒の中には、これまでの学校生活で、不安な思いや不登校の経験のある生徒もいることから、不安な要素を取り除いたり、解決したりして、学校生活を続けられるように支援を行うことが必要である。

そのために、特に一年生では、入学後まもなくスクールカウンセラーとの全員面接や全学年によるグループエンカウンターなどを実施する。その他の学年においても、進級、卒業や将来への展望が持てるよう、進路指導の充実を図りながらスクールカウンセラー、ユースソーシャルワーカー、保護者や関係機関と連携し、その生徒にとってよりよい方策をとれるように努める。

(2) 学習指導

「学力がついた」と感じている生徒の比率が若干上昇したが、生徒の学習歴や到達度は様々であり、個別の目標設定など、生徒の興味関心や状況に応じた指導の充実が一層重要である。学習の成果が見て取れるような課題の提示の仕方や、各種検定試験に挑戦させるなど、生徒自身が学びの成果を実感できる手立ての一層の工夫が必要である。

さらに、オンライン授業や一人一台端末を活用した授業についての研修や創意工夫に取り組み、教員の授業力向上に努めなければならない。

(3) 生活指導・特別活動

近年は、校内における生徒間・対教師に対する大きな問題行動は、発生していない。誰もが安心・安全に学習できる環境整備に努めるとともに、心身の不調に対応できるよう、対外関係諸機関との連携を密にしながら教職員のカウンセリングマインドのさらなる涵養に努めていく必要がある。

部活動・特別活動については、生徒の興味・関心に応じた学校行事の見直し・検討を重ね、部活動のさらなる充実を図り、生徒の活動の場を広げ、生徒の達成感や充実感を高める。

(4) 進路指導

今年度は、より早期からの進路指導を充実させたが、進路決定率の向上にはならなかった。生徒全体でも、進路指導の満足度は高くないことから、早期から進路意識を高め、複数の選択肢について考える機会を作るなど、多方面からアプローチできるよう、進路行事等の一層の充実を図る。

#### (5) 学校経営・組織体制、その他

少人数のため、個人の力量に任されがちになってしまうが、担当以外の業務においても学校実務の理解を深め、OJTを進める。また、全教職員の学校経営参画意識を高め、組織的な学校経営を推進する。

服務事故防止については、自己点検や相互チェックを行い、慣れによるミスが起こらないよう引き続き職場風土を醸成していく。